宗谷南農協通信

No. 005

年頭の挨拶

宗谷南農業協同組合
代表理事組合長
向井地　信之

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられ、心からお慶びを申し上げます。また、日頃から農協の各事業の推進に対しましては、格別なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、年明け早々中国、武漢で発生いたしました新型コロナウイルス感染症が全世界に蔓延し、北海道でも2月の札幌雪祭り以降、感染者が急激に増加し4月には、緊急事態宣言が発令されました。その後の北海道経済は、急激に疲弊し、特にサービス業、観光業は各地区で大きな打撃を受け、新型コロナウイルス感染症は冬期間に入っても今なお猛威を振るっており、社会経済活動や住民生活に大きな影響を与えております。又、コロナ禍の中、昨年の生乳状況は、緊急事態宣言の期間は、外出自粛や学校給食用牛乳の休止、レストランや外食産業の休業・時短営業により、飲料乳等の需要も大幅に落ち込み、急遽生乳処理を加工向けの業務用バターや生クリーム等の増産にシフトし、一滴の生乳も廃棄することなく、危機を回避した状況であります。しかしながら、現在は、加工向けに処理をしたバター等の在庫が過去最大量となり、農水省は、高水準となっている在庫数量を適正化するため、輸入バター枠を減少させ適正在庫に向けて調整を行っているところであります。

この様な生乳の需要と供給が非常に不安定な中、政府自民党は、21年度加工原料乳生産者補給金については、購入飼料費や燃料費などの生産コストが軒並み下落していることから『算定ルールに従い下げるときは下げなければならない』と言う方針であり、北海道の組合長会では、コロナ禍の中、酪農家が安心して生産するには価格の安定が必要であり現行水準の確保を強く求め協議をしてきましたが、自民党は12月9日に加工原料乳生産者補給金は5銭値下げの8円26銭、集送乳調整金は人件費等の上昇を加味し5銭値上げの2円59銭とし20年度と同額と致しました。又、交付対象数量につきましても345万トンで据え置した結果となりました。

宗谷南農協の令和2年の出荷乳量は(クミカン年度)59，249トン前年対比102.4％となりました。合併目標の60，000トンには届きませんでしたが、日々の組合員の増産に対しての意欲、ご努力の結果が生乳増産につながったことや、当初設立時には組合員の皆様にご心配を頂きました、子会社(株)アグリサポート枝幸の生乳生産部門ファームAYNIが順調に稼働したことが大きな要因となっております。しかしながら当農協は毎年数戸の組合員が離農休農されており、今後の生乳生産量維持・増産に不安を残すところであります。

組合員の今年の営農収支内容につきましては、個体販売価格に於いては、当初から懸念された通り、特に初妊牛や初生犢の価格が下落している状況にあり、個体販売での所得が得られなかった組合員につきましては、クミカン整理に初妊牛や育成牛の販売を行ってのクミカン整理をされた組合員も見られました。農協と致しましては、11月中旬には、組合員へ乳牛保留資金の活用を積極的に促し、組合員の令和3年度生乳生産量の増産を目的とする対策を行いました。

又、新年度の営農計画樹立におかれましても、無事営農計画書の策定を終えましたが、一部の組合員におかれましては厳しい内容となっておりますし、今後もさらに個体価格も陰りを見せ、5年前の個体販売価格に戻りつつあると思われます。組合員皆様の所得の向上には、生乳の増産が基本であり、良質粗飼料の確保や日頃の乳牛の健康管理を含めた飼養管理を徹底する事が必要であります。又、将来の強固な安定経営には、規模拡大や牛舎の増設、育成舎等の施設投資にも積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

公共育成牧場につきましては、今年も昨年同様受入頭数が急増し、飽和状態となっております。現在も組合員の初生牛受け入れを制限しておりますが、今年の3月には道営草地整備型公共牧場整備事業により事業費4億円強を投資した、200頭牛舎1棟が完成し、今後、哺育舎1棟、患畜舎1棟、堆肥舎の整備を着工し、令和4年3月までには総ての整備が完了する予定となっております。完成後につきましては、初生牛の受入につきましも徐々に制限が緩和される見込みであります。又、枝幸町公共育成牧場を建設した趣旨につきましては、育成部門の労働力の軽減と枝幸町酪農・肉用牛生産近代化計画に基づいた、生乳生産の増産を目的とした施設でありますので組合員の皆様には、趣旨ご理解の上ご利用頂きますようお願いを申し上げます。

組合事業の年度末収支見込につきましては、コロナ禍の中、11月の秋の組合員懇談会において、組合員の皆様にお示しする予定でありましたが、11月に入りコロナ感染者が北海道各地で、急激な増加したことを踏まえ組合員懇談会を中止することとなりました。12月現在の収支状況につきましては、昨年並みの収支が見込まれる予定でございます。しかしながら、信用事業の主要な収益でもあります奨励金につきましては、近年の金利政策等の運用環境の悪化等により段階的に農協への奨励金が減少しており、今後の農協運営につきましては非常に厳しい状況を迎えております。又、懸念事項であります不採算部門のAコープ、メカニックサービスにつきましては、北海道常例検査におきましても今後の改善対応を強く求められている状況を踏まえ、すでに組合員の皆様には昨年春の組合員懇談会等でも説明を行い、組合員の皆様のご理解を頂き、メカニックサービス部門につきましては今年2月末を持って営業を終了する事と致します。組合員の皆様につきましては、長年のご利用に対しましてこの場をお借りし厚くお礼申し上げます。

最後になりますが、昨年はコロナ禍により農協主催の組合員親睦会や、枝幸町就農者誘致促進セミナー等の開催をやむなく中止する判断をさせて頂きましたが、今年につきましては、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い収束を願い、今年の農協主催行事の再開ができることと、組合員並びにご家族様、関係各位の皆様にとって事故のない健康で豊穣の1年でありますよう衷心よりご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

宗谷南農業協同組合

代表理事組合長	向井地信之
理事・総務委員長	下山勲
理事・業務委員長	小野寺俊一
理事・生活店舗整備工場運営特別委員長	小林政夫
理事・総務副委員長	木村浩
理事・業務副委員長	吉田明彦
理事・生活店舗整備工場運営特別副委員長	山崎幸夫
理事兼参事	寺前孝義
理事兼金融共済部長	清野盛
代表監事	平田勝一郎
監事	米内潤二
監事	福井金吾

他職員一同

年頭の挨拶

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長　小野寺　俊幸

新年あけましておめでとうございます。組合員並びに役職員の皆様には、コロナ禍にあってもその苦境にも負けず、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しても、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業は、米の作況指数が１０６の「良」、畑作物については収穫時期に一部地域に降雨による影響が見られたものの平年並以上の結果となり、生乳も前年の実績を超える生産となり、地域、作目によって違いはありますが概ね良い出来秋を迎えることが出来たと感じております。しかしながら、昨年は、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した１年でありました。農業分野においても例外ではなく各種イベントの自粛、外食・中食の需要減少等の影響により、各作物の更なる需給緩和が懸念されているところです。今後は作物ごとの実態を踏まえた、国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生が入国できないことにより、農作業の人材確保にも大きな影響が出ておりますので、北海道、全国連とも連携し、ＪＡグループ北海道としてしっかりとその対応を図ってまいります。

ＪＡグループ北海道では、昨年より道民の皆様に対し北海道農業から行動を起こすことで、農業と人、農村と都市、生産者と消費者の関係のあり方を見つめなおしていただくことを目的として「ＡＧＲＩＡＣＴＩＯＮ！ＨＯＫＫＡＩＤＯ（アグリアクション北海道）」と題した情報発信を北海道の支援もいただき、スタートいたしました。

「ＡＧＲＩＡＣＴＩＯＮ！ＨＯＫＫＡＩＤＯ」は次の３つのテーマを伝えることを目的としております。

①食料自給率に対する理解促進と行動変容の喚起。

②農業には多様な働き方があるということの周知とより多くの方が農業に携わっていただき、将来的に農業を仕事の選択肢として考えてもらうこと（本業以外に副業として農業に親しむ人々を「パラレルノーカー」と命名）

③日頃から道産農畜産物を食している道民の皆様に感謝を伝えること。

本年は第２９回ＪＡ北海道大会の実践最終年であることから、この取組みと協同の力を梃子として「農業所得の増大」「多様な担い手の確保・育成」「食と農とでつながるサポーター５５０万人づくり」の目標達成に向けて、実践活動を強化してまいります。

結びになりますが、本年は辛丑年です。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢（耐える）」、「これから発展する前触れ」というような年になると伝えられております。

この謂われにあやかり、新型コロナウイルスの１日も早い克服と皆様のご健勝、本年が豊穣の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年の挨拶

ＪＡ宗谷南青年部
部長　大塚　悟

新年あけましておめでとうございます。年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶申し上げます。旧年中は部員並びに組合員様ご家族様、また宗谷南農協始め各関係機関の皆様方には日頃の青年部活動に対しまして、ご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年を振り返りますと、自然災害では７月に東北から西日本にかけて広い範囲で記録的な大雨となり甚大な被害が出ました。災害が毎年起こっているので、油断せず常に万全な準備をしておくことが大切だとより一層感じております。また、今もなお流行し続けている新型コロナウイルスにより私たちの生活様式が世界規模で変わり、怒涛の年となりました。

昨年の牧草収穫作業では、１番草収穫時期の天候不順の為収穫作業が遅れましたが、２番草の収穫は天候にも恵まれ順調な年でした。

また、国内の酪農情勢は、北海道酪農は規模拡大等により生乳出荷量が順調に増産し初の北海道生乳４００万トンの時代を迎えようとしております。乳価は前年に引き続き高水準を保ってはおりますがコロナ禍でレストランやホテルなどの乳製品業務需要が低下しさらには春先からの学校給食用牛乳の停止が加わり行き場のなくなった学校給食用牛乳を乳製品加工に回したため乳製品在庫が増え、乳製品過剰の状態となっており、乳価にも影響が出てくることが懸念されるため今後の動向を注視していかなければなりません。

青年部の活動は相次ぐイベントの中止や牛乳配布、紙芝居等の従来の活動が感染拡大の観点から厳しく、12月に行われた全道大会はオンライン開催になるなど新型コロナウイルスの影響を大きく受けた１年でした。今年は、イベント等の自粛により開催が難しい中、感染対策をしながらも乳製品の消費拡大や食育などの活動を行っていく方法を考え、自分たちが出来る活動を精一杯行い、新型コロナウイルスに負けないよう活動していきたいと思っております。

最後になりますが、旧年中はご迷惑や至らない点が多々ございましたが、本年も青年部の更なる発展を目指し、部員一同邁進してまいりますので今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

JA YOUTH

宗谷南農協青年部

部長	大塚　悟
副部長	山崎　知紀
副部長	井上　英之
理事	坂東　慎太郎
理事	山崎　紀幸
監事	高橋　慶大

新年の挨拶

ＪＡ宗谷南女性部
部　長　戸澤　宏美

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、ご家族で輝かしい新年を迎えられました事を心よりお喜び申し上げます。また日頃より女性部の活動に対しまして、宗谷南農業協同組合を始め各関係機関の皆様にはご理解とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大で農業分野にも大きな影響、混乱が広がり、未だに収束の目途が見えない状態です。

年明け早々、新型コロナウイルス発生のニュースに始まり、学校休校による牛乳余剰、オリンピック延期、４月には緊急事態宣言、各地での感染拡大で第２波、第３波等々コロナウイルスの影響で生活が一変しました。

私たち女性部活動におきましても一昨年より計画しておりました道外視察研修も延期せざるを得ない状況となってしまいました。様々な行事、活動が中止や自粛という中で10月には講師をお招きしハロウィンに向けてのフラワーアレジメントを行いました。短い時間でありましたがコロナウイルスを忘れ楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

まだまだこれから世の中がどのように動いていくのかわかりませんが、今こそ牛乳・乳製品で免疫を高めて十分な感染予防対策をして活動再開出来ることを願います。

最後になりますが、今年も実り多き年と願い、皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ新年の挨拶とさせて頂きます。

宗谷南農協女性部

部　長　戸澤　宏美
副部長　石川　春子
副部長　菊池　静子
理　事　小野寺　千代子
理　事　松井　幸子
理　事　澤田　瑠衣
監　事　山﨑　美和子

宗谷南酪農利用ヘルパー組合

組合長　小林政夫
副組合長　山崎知紀
理事　中野隆
理事　玉村勇司
理事　高橋博則
理事　井上賢一
理事　澤田和人
代表監事　松井康有
監事　安井一晃

他　職員一同

宗谷南乳牛検定組合

組合長　藤山祐介
副組合長　関口真也
理事　堤寿浩
理事　松田司
理事　井上英之
理事　榊原孟
代表監事　髙橋慶大
監事　今賢二

宗谷南乳質改善協議会

会長　向井地信之
副会長　桜庭明彦
副会長　真壁哲也
監事　政木大治
監事　山岸也須彦

昨年中は組合員皆様のひとかたならぬご理解、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。
今年も自己研鑽を重ねて知識と技術の向上を図り、コントラ部門、育成牧場部門共に、組合員皆様の一助となるように、また一昨年より稼働しました搾乳部門では、第一次産業の衰退を防ぐ為、乳量の確保や将来枝幸町へ就農する担い手の受入先としての役割を果たしてまいります。
何とぞ、昨年と変わらぬご利用・ご活用を賜りますようお願い申し上げます。
皆様におかれましても、健康で稔り多い年であります様ご祈念申し上げます。

枝幸郡枝幸町幸町８１２１番地３
株式会社　アグリサポート枝幸